



人への「思いやり」と「感謝」を 第3回日本語大賞表彰式

日本語検定委員会主催の日本語の美しさや言葉のもたらす力を見つめ直す「日本語大賞」の第3回表彰式が2月26日、最優秀賞受賞者4人らが出席して東京・北区の東書ホール（東京書籍本社）で行われました。

第3回のテーマは「人と人をつなぐ日本語」。海外からの176点を含めて小学生の部361点、中学生の部557点、高校生の部564点、一般の部274点と、第2回を608点も上回る計1756点の応募がありました。第1次、第2次の審査を経て、審査委員11人による最終審査が行われ、4部門それぞれに最優秀賞1点、優秀賞3点、佳作5点が決まりました。



この日の表彰式には、▽小学生の部、パリ日本人学校小学部1年、柏崎日向子さん▽中学生の部、岩手県陸前高田市立気仙中学校3年、長沼夏帆さん▽高校生の部、横浜市立ろう特別支援学校高校2年、上岡彩乃さん▽一般の部、福岡県筑紫野市の主婦、山内千晶さん一的最優秀賞受賞者4人全員が出席し、それぞれ賞状、楯、副賞が贈られました。

表彰式は、フリーアナウンサーで審査委員の梶原しげるさんの司会で進行しました。主催者を代表して梶田叡一理事長（環太平洋大学学長）が全体講評で、「日常生活の中ではよほど気を付けないと、日本文化を支えてきた日本語本来の持つ美しさや豊かさが損なわれがち。そういうことがないように日ごろから心掛けていくことが大切」とした上で「受賞作品は非常に感動的で、素晴らしかった。もっと多くの人に知ってもらいたい」と述べました。

また、出席した審査委員の中田正博さん（時事通信社社長）、山内純子さん（ANA ラーニング会長）、大橋善光さん（読売新聞東京本社常務取締役）、山口仲美さん（明治大学教授）、村越和弘さん（全国高等学校国語教育研究連合会会長）、平野啓子さん（語り部）、川畑慈範さん（東京書籍社長）、梶原さんの8人がそれぞれ講評。「東日本大震災があったということもあるが、人と人のつながりの大切さ、人への『思いやり』と『感謝』という気持ちがひしひしと伝わってきた」「各人の体験を分かりやすく、その思いが前向きに力強く表現されていた。読んでいて自分が元気づけられた気がする」などとコメントしました。

このあと、柏崎さんの、一日の終わりにその日一番楽しかったことやうれしかったことを思い出し、そのことのお礼を家族にすることでお礼の意味を理解していくことを書いた「おれいのきもち」、長沼さんの、東日本大震災の悲惨な体験の中で、人の深い絆とつながりで自分は生かしてもらったことに気づき、感謝から恩返しへと心が変化していくさまをつづった「感謝が結んだ絆」、上岡さんの、聴覚障害を真正面から受け止め強く生きていこうとする力強い思いと両親の愛情を記した「父と母からの贈り物」、山内さんの、白血病になりド

ナーと巡り会うことで、人は必ず誰かに支えられ生きているという大切なことに気付く『『おかげ様』の向こう側に』の最優秀賞作品4点が朗読されました。受賞者とその関係者は梶原さんのインタビューを受け、それぞれの作品に込めた思いを語りました。

受賞者を代表して、山内さんは「これからも誰かのおかげ様になれるよう頑張っていきたい」とあいさつしました。

このほか、この日の表彰式では、上岡さんに同伴し、高校生の部で優秀賞を受賞した横浜市立ろう特別支援学校の山本真理菜さんと糠谷栞里さんも特別に表彰されました。

